

石巻エリア

石巻市 東松島市 女川町



日和山から眺めた4年目のまち並み（石巻市）

石巻エリアは、宮城県の東部に位置し、石巻市、東松島市、女川町の2市1町で構成されています。平成26年度は多くの公共交通機関が復旧し、各市町で宅地の造成工事が本格的に進みました。

平成26年4月には、震災により通行止めとなっていた県道牡鹿半島公園線（通称：コバルトライン）が開通し、これにより県内全ての県管理道路の通行止めが解除されました。また、震災により運休していたJR石巻線は、平成27年3月に新しい女川駅の開通に合わせて、全線が開通します。

水産業の水揚げは、女川が震災前の平成22年を上回ったほか、石巻は9割以上まで回復しました。震災により全壊した石巻魚市場では、平成27年8月の完成を目指して再建工事が進められ、鉄骨4階建て、建物の長さは約880メートルで、震災前に「日本一」と言われた規模を上回る計画となっています。

また、東松島市等では住民主体の自治組織が中心となり、地域のコミュニティづくりが進められています。



石巻エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	5,284人	10,530人
行方不明者	714人	1,255人
全壊	28,475棟	82,993棟
半壊	18,953棟	155,126棟

〔平成27年1月31日現在〕

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成27年1月
プレハブ住宅	24,328人	17,330人
民間賃貸借上住宅	22,692人	8,739人
計	47,020人	26,069人

〔平成27年1月31日現在〕

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成26年2月	平成27年2月
計画戸数	5,955戸	5,928戸
着手戸数	2,767戸	4,450戸
完了戸数	149戸	976戸

〔平成27年2月28日現在〕



大量の土砂搬出のために設置されたベルトコンベヤ（東松島市）



町民陸上競技場跡地に建設された災害公営住宅（女川町）

石巻エリアの定点観測

石巻市門脇町周辺

太平洋に近く、最も被害が大きかった地域の1つですが、被災した建物が解体され、がれきが片付けられました。



JR石巻駅周辺

震災により被災した石巻市立病院は、JR石巻駅の近くに移動することが決まり、再建工事が進められています。



石巻市雄勝地区周辺

壊滅的な被害を受けた雄勝地区は、被災した建物が撤去され、新しいまちづくりに向けた整備が進められています。



東松島市鳴瀬地区周辺

運河周辺を埋め尽くしたがれきの撤去が完了し、運河横の道路は野蒜北部丘陵地区の復興工事車両が通行できるようになりました。



東松島市小野地区周辺

冠水する被害を受けましたが、写真左側水路奥では、災害公営住宅が整備されました。



女川町女川浜周辺

町の中心部が壊滅的な被害を受けましたが、復興まちづくり事業が本格的に進んでいます。



2014年2月15日 土曜日

“おのくん”に会いに来て！

(東松島市)



「小野駅前で作っているから『おのくん』でいいんでねえ？」“がんばろう！”じゃなくて“めんどくしえ”。気負いなく、無理をせず、肩の力を抜いて…。これが「小野駅前郷プロジェクト」の合い言葉です。「おのくん」はここで生まれて全国の、世界中の「里親」と元気に暮らしています。

2014年3月15日 土曜日

復幸男、走りました。

(女川町)

「女川町出身として、絶対に復幸男になりたかった」と、鈴木大さん。「津波が来たら高台へ逃げる」という津波避難の基本を、何かの形で後世へ伝えたいという思いから始まった競走大会「津波伝承 復幸男」で2連覇です。



2014年3月16日 日曜日

女川町復幸祭 2014

(女川町)

「この町の主人公はあなたです。女川、東北の素晴らしさを皆さん自身がどんどん発信し、女川町が21世紀のモデルになってほしい」。「女川町復幸祭2014」の女川町長とのトークショーで、俳優の別所哲也さんが熱いエールを送りました。



2014年4月18日 金曜日

桜の舞台で舞を奉納

(石巻市)

石巻市雄勝町桑浜に鎮座する「白銀神社」(しろがねじんじゃ)の春季例祭。国指定重要無形文化財「雄勝法印神楽」の奉納も行われ、会場となった桑浜と羽板両地区は一日中、華やぎました。



2014年6月1日 日曜日

3年間、待っていました！

「金華ほや・帆立 復興感謝祭」

(石巻市)



「水揚げまでの3年間、たくさんのご支援のおかげで、ついにホヤ養殖が復活しました」と寄磯ほや養殖部会長の遠藤正さん。3年ぶりの「宮城のホヤ」は、海の滋味をそのままいただいたような味わいで、ほのかな甘さもありました。

2014年6月1日 日曜日

我歴 stock in 女川～冒険編～

子どもたちが主役のファッションショー

(女川町)

第4回我歴 stock in 女川。今年のテーマは「子どもたちが主役」。中でも子どもたちが輝いたのは、2012 Miss Universe Japanの原綾子さんがプロデュースしてくれた「AHS プレゼン チャリティーファッションショー」でした。



2014年7月25日 金曜日

行先は、「世界一面白い街」。マンガタ ンライナー号、出発進行！

(石巻市)

「石巻 STAND UP WEEK2014」のオープニングとして、特別列車「石巻アイデアトレイン on 石巻線マンガタンライナー」が運行されました。車内では東北の未来を語り合うワークショップが開かれ、乗客の皆さんがアイデアを次々に発表していました。



2014年7月27日 日曜日

イシノマキコレクション！

(石巻市)

「この夏は、パリコレではなく、マキコレ！」。1人の高校生が思いを行動に移して実現したイベント、その名も「イシノマキ コレクション (マキコレ)」。「石巻で見たことがないファッションショーにしたい」と山田はるひさんは意気込みます。



2014年9月29日 月曜日

ダンスの先生が女川町にやってきた

(女川町)

「自分には何ができるか？」被災地を訪れる人たちの多くが自分自身に向ける問いかけ。19歳でダンス歴12年のベテラダンサー C-ONE さんの答えは、「子どもたちにダンスの楽しさ、体を動かす素晴らしさを伝えたい」でした。



2014年9月29日 月曜日

笑って笑ってもっと元気に！ 小学校で落語の授業

(東松島市)

「笑う門には福来る。今後も東北に福を運びたい」。東松島市立鳴瀬桜華小学校で、上方落語の桂かい枝師匠と江戸落語の三遊亭兼好師匠による「落語の授業」が行われました。子どもたちは、高座に上がったたり、落語の様々な仕草を教してもらったり、笑い転げたりと多くの経験ができました。



2014年10月3日 金曜日

親子で繋ぐ新たな伝統。石巻唯一の糍(こうじ)製造所

(石巻市)

津波で店舗、工場、倉庫の全てを奪われて一時は存続も危ぶまれた糍(こうじ)製造所。創業明治42年のお店は、自然発酵の甘糍飲料を新たな商品として開発し、再出発しました。原材料はササニシキ等米と水のみ。すべて宮城県産です。



2014年10月20日 月曜日

挑戦中！たくさんの“実り”が輝く大地へー

(東松島市)

「なに、オレたちが拓く前は、ここは塩田だったんだ」。津波をかぶった農地の復旧工事が進められている東松島市の野蒜地区で、試験栽培されたソバが収穫されました。同地区では塩害が農作物の成育に及ぼす影響などを調査して、今後の営農に役立てようという取り組みが進められています。塩害を乗り越えて、県と市とJA、そして農家の挑戦が続きます。



2014年11月11日 火曜日

子どもたちが元気に走りました！！ うみねこキッズランナー

(女川町)

「女川の町に元気を届けます！！」震災前年まで26回を数え、全国から毎年1,000人以上ものランナーが参加していた「女川うみねこマラソン」。震災後は復旧工事のため休止していましたが、保険会社のサポートにより「小学生の部」限定で復活しました。



2014年12月13日 土曜日

世代間交流を願う灯 ～東松島市のイルミネーション～

(東松島市)

東松島市矢本東市民センターでライトアップされた「ファンタジックイルミネーション」。矢本地区の住民が中心となり企画、運営を行う100%手作りのイベントです。市民協働の一環として、平成20年に第1回目が開催され、震災後の今も続いています。



トピックス

夢を乗せた電車の復活へ

(東松島市)

震災による津波でレールごと流されてしまったJR仙石線。運転を休止している高城町駅と陸前小野駅間では、代替バスを運行しながら、駅を内陸に移転するなど復旧工事を進めてきました。平成26年12月には、移転再建中の東名駅でレール締結式が行われ、震災後、約3年9か月の月日を経て、再びつながりました。全線開通は平成27年5月を予定しています。



▲ 陸前大塚・陸前小野間レール締結式の様子



▲ 旧野蒜駅を改修した野蒜地域交流センター